

(別添 1)

【上牧町】
端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和10年度
1 児童生徒数	1,267	1,242	1,233	1,215	1,173
2 予備機を含む 整備上限台数	1,457	1,428	0	0	0
3 整備台数 (予備機除く)	0	1,242	0	0	0
4 ③のうち 基金事業によるもの	0	1,242	0	0	0
5 累積更新率	0	100%	100.1%	102.2%	105.9%
6 予備機整備台数	0	168	0	0	0
7 ⑥のうち 基金事業によるもの	0	168	0	0	0
8 予備機整備率	0	13.5%	0	0	0

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

令和2年度に整備した機器について、令和7年度に端末更新を行う。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：1,604台

○処分方法

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 104台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にも再使用・再資源化を委託 : 0台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者にも再使用・再資源化を委託 : 1,500台
- ・その他 () : 0台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

・自治体の職員が行う

●処分事業者へ委託する

○スケジュール(予定)

令和7年12月 処分事業者 選定

令和8年4月 新規購入端末の使用開始

令和8年10月 使用済端末の事業者への引き渡し

○その他特記事項

(「⑤ 累積更新率」が令和10年度までに100%に達しない場合は、その理由)

(別添2)

【上牧町】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)
40% (「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査」実施測定結果から)

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和7年3月までに、ネットワークアセスメントを実施し課題の特定を完了させる。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、令和7年4月から順次改善策の検討を開始し、令和8年9月末までに対象校における改善策を完了させる。

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

(別添 3)

【上牧町】
校務DX計画

令和5年度に校務支援システムの導入を検討していたが、同時期に次世代の校務システムについての検討が始まったことから、導入を延期している現状がある。今後、端末整備・更新計画に合わせて、次世代の校務システムを導入できるように検討を進めていく。

検討においては、クラウド環境を活用し、指導者用端末と校務系端末等の一体化を図るとともに、情報の共有・連携を進めていくために、ネットワーク・システムのあり方や必要なセキュリティの確保、導入によるメリット・デメリット等について情報の整理を行っていく。

(別添 4)

【上牧町】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

1 人 1 台端末や高速大容量の通信ネットワークの整備をとおして、すべての児童・生徒が必要なときに、必要な情報へアクセスすることにより、その事柄への理解の定着や新たな発見、情報の取捨選択等の学びのみならず、自ら積極的に学ぶ姿勢やグループワーク等をとおして協働する力を身につけていく。

2. GIGA 第 1 期の総括

児童・生徒 1 人あたり 1 台の端末整備や通信ネットワークの整備は完了した。端末の利用状況については、各校では差が出ているが、小学校低学年においても生活科で調べ物をしたり、様々な方法で活用をしている。端末を活用した学びの実践については取組が進んできているが、端末やアカウントの管理、システムの構築等については整理が行えていない部分もあり、今後の端末の更改があることから早急に整理を行う必要がある。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

「個別最適・協働的な学びの充実」

現状の取組を継続していくとともに、利活用についての方法について情報収集に努め、使用方法について新たな知見を提供し、学びの方法につなげていく。

「学びの保障」

現状は校内での利用が主であるが、オンラインによる授業への参加やチャット等を活用したコミュニケーション等について検討を行っていく。

「双方向型の授業の展開」

1 人 1 台端末の利用頻度の向上を図り、これまでの黒板を使用していた一方向な授業展開から、児童・生徒 1 人ひとりの反応を踏まえた双方向型の授業へ展開していく。

「1 人 1 台端末の積極的活用へ向けた支援」

積極的な活用を行うために、教員に対する ICT 研修や ICT 支援員等について検討を行い、端末の使用についてのハードルを下げるように努める。

「1 人 1 台端末の積極的活用に向けた環境整備」

端末の更新後も、現在の 1 人 1 台端末の状況を維持し、使用頻度に見合うネットワーク速度の確保に努める。